

1. 大学名	公立大学法人島根県立大学
2. 実施主体（センター名）	
3. 連携大学・コンソーシアムがあれば（大学・コンソーシアム名）	
4. これまでの復旧・復興のための支援等の活動実績	<p>&lt;活動実績&gt;</p> <p>1. 学生・教職員のボランティア派遣</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO法人構成員の学生が、福島県郡山市で活動した。</li> <li>・島根県社会福祉協議会が派遣する「島根県災害ボランティア隊」に学生が参加して、災害ボランティアとして宮城県石巻市で活動した。同ボランティア隊には、現地のボランティア活動の状況を把握して、今後の支援体制を検討するために、教職員も同行した。</li> </ul> <p>*これまでの派遣人数 学生：49名・教職員：2名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・石巻市内の読み聞かせ活動に教員1名が参加した。</li> </ul> <p>2. 絵本の送付</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仙台市のNPO法人に絵本を送付した。（約4,000冊）</li> </ul> <p>&lt;活動実績と自治体との連携・協力関係&gt;</p> <p>② 現在の連携の状況・協力体制</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・島根県の職員派遣要請等に対応することとしている。</li> </ul> <p>&lt;その他の機関との連携・協力関係&gt;</p> <p>② 現在の連携の状況・協力体制</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本学学生のボランティア活動要望調査の結果を派遣計画に反映するよう要請するなど、島根県社会福祉協議会と連携して、学生ボランティアの派遣を進めている。</li> </ul>
5. 今後、予定している活動内容	<p>&lt;活動内容&gt;</p> <p>① 学生ボランティアの派遣</p> <p>② 保健師の派遣</p> <p>&lt;活動内容と自治体との今後予定されている連携・協力関係&gt;</p> <p>① 今後の連携・協力体制</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・島根県と連携し、要請があれば石巻市内に保健師を派遣し、健康相談等に対応する予定である。</li> </ul> <p>&lt;その他の機関との連携・協力関係&gt;</p> <p>① 今後の連携・協力体制</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・島根県社会福祉協議会と連携し、8月から9月にかけて同協議会が計画している、岩手県陸前高田市を派遣先とする一般県民向けのボランティア隊と、岩手県立大学学生ボランティアセンターが参画する「いわてGINGA-NETプロジェクト」の主催する活動に派遣する学生向けのボランティア隊に参加することとしている。</li> </ul>
6. 活動が、自治体の復興計画に記載されている場合（今後の予定を含む）又は自治体との連携協定がある、又は要望等がある場合（特に被災地の大学について）	

1. 大学名／ご担当者名／電話	岡山県立大学
2. 実施主体（センター名）	
3. 連携大学・コンソーシアムがあれば（大学・コンソーシアム名）	大学コンソーシアム岡山
4. これまでの復旧・復興のための支援等の活動実績	<p>&lt;活動実績&gt;</p> <p>公的団体等からの学生ボランティア募集に対し、情報の提供及び参加者の取りまとめ</p> <p>ボランティア参加申込学生（8月～9月）13人</p>
5. 今後、予定している活動内容	
6. 活動が、自治体の復興計画に記載されている場合（今後の予定を含む）又は自治体との連携協定がある、又は要望等がある場合（特に被災地の大学について）	

1. 大学名	新見公立大学
2. 実施主体（センター名）	
3. 連携大学・コンソーシアムがあれば（大学・コンソーシアム名）	
4. これまでの復旧・復興のための支援等の活動実績	<p>&lt;活動実績&gt;</p> <p>①学友会執行部による街頭募金活動3/15～3/17の3日間及び3/18卒業式の募金活動により義援金403,652円、看護学科2年生有志による街頭募金活動3/15～3/17の3日間に義援金337,128円、大学教職員による義援金230,332円、合計971,112円を3/25に新見市役所に関係者が赴き、新見市長に寄託した。</p> <p>②看護学部有志により、15種類（箱ティッシュ・マスク・おむつ等）222点の支援物資を3/31に、第二便として15種類（箱ティッシュ・マスク・おむつ等）274点の支援物資を5/6にAMDAに搬送依頼した。</p> <p>③学内の募金箱による10,041円の義援金を6/8に新見市に寄託した。</p>
5. 今後、予定している活動内容	
6. 活動が、自治体の復興計画に記載されている場合（今後の予定を含む）又は自治体との連携協定がある、又は要望等がある場合（特に被災地の大学について）	

1. 大学名	県立広島大学
2. 実施主体（センター名）	
3. 連携大学・コンソーシアムがあれば（大学・コンソーシアム名）	
4. これまでの復旧・復興のための支援等の活動実績	<p>学生ボランティアの参加 1名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・期 間 6月18日～7月3日</li> <li>・取扱い 単位付与, 履修への配慮などの特別措置なし（欠席扱い）</li> </ul>
5. 今後、予定している活動内容	<p>学生ボランティアの参加 3名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・期 間 夏季休業期間中</li> <li>・授 業 ボランティア活動</li> <li>・取扱い 集中講義（5月）受講, 主催団体の証明及びレポート評価により単位付与</li> </ul>
6. 活動が、自治体の復興計画に記載されている場合（今後の予定を含む）又は自治体との連携協定がある、又は要望等がある場合（特に被災地の大学について）	

1. 大学名	広島市立大学
2. 実施主体（センター名）	①広島県 ②広島市立大学
3. 連携大学・コンソーシアムがあれば（大学・コンソーシアム名）	
4. これまでの復旧・復興のための支援等の活動実績	<p>① 現地での医療等救護班活動への参加  広島県からの依頼を受け、平成23年5月24日から31日までの間、教員1名が福島県郡山市の医療機関等で構成される保健・医療チームの一員（臨床心理士）として参加した。</p> <p>② 義援金の受付・呼びかけ  平成23年3月18日から5月31日までの間、学内に募金箱を設置し、デジタルサイネージや掲示板、電子メールにより、学生や教職員、学外者に対し広く周知し義援金を募ったほか、卒業式の際には、卒業生を中心とした学生グループが、教職員、学生、保護者を対象に募金の呼びかけを行った。なお、期間中に受け付けた義援金は、日本赤十字社に送金した。</p> <p>【9/15 追加分】  学生9名が以下のようなボランティア活動に参加した。</p> <p>①日本財団  学校・民家の泥かき、がれきの撤去、表札作り</p> <p>②一般社団法人ソーシャルビジネス・ネットワーク  起業インターンシップ、朝市販売業務の手伝い、避難所における話相手等</p> <p>③広島市被災者ボランティア本部  泥かき、がれきの撤去</p> <p>④東京災害ボランティアネットワーク  避難所での生活支援</p> <p>⑤広島市社会福祉協議会  泥かき、がれきの撤去、支援物資の配分、七夕祭の準備</p>
5. 今後、予定している活動内容	
6. 活動が、自治体の復興計画に記載されている場合（今後の予定を含む）又は自治体との連携協定がある、又は要望等がある場合（特に被災地の大学について）	

1. 大学名	尾道大学
2. 実施主体（センター名）	
3. 連携大学・コンソーシアムがあれば（大学・コンソーシアム名）	
4. これまでの復旧・復興のための支援等の活動実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東日本大震災で被災し、尾道市近隣に避難されている学生の就学機会を確保する観点から、本学では学習意欲のある避難学生を科目等履修生として全学部で受入れの募集を行っています。</li> <li>    応募者なし</li> <li>・ 学内に募金箱を設置し、教職員・学生に呼びかけを行ったり、学位記授与式・入学式に募金箱を設置し募金活動を行っています。</li> <li>    7月1日に、233,813円を尾道市を通して募金しました。</li> </ul>
5. 今後、予定している活動内容	
6. 活動が、自治体の復興計画に記載されている場合（今後の予定を含む）又は自治体との連携協定がある、又は要望等がある場合（特に被災地の大学について）	

1. 大学名	山口県立大学
2. 実施主体（センター名）	総務グループ、教務入試グループ、生活支援グループ
3. 連携大学・コンソーシアムがあれば（大学・コンソーシアム名）	
4. これまでの復旧・復興のための支援等の活動実績	<p>&lt;活動実績&gt;</p> <p>① 被災地への救援物資の提供 教職員・学生から寄附された日用品を、山口市を通じて被災地へ提供した。</p> <p>② 被災学生への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・震災の影響により後期日程試験を受験できなかった者を対象に、追試験を実施した。（受験者数：1名）</li> <li>・被災学生に対し、入学手続期間の延長を行った。（適用者：1名）</li> <li>・被災学生に対し、授業料半額免除（2分の1相当額 133,950 円）を行った。（適用者：1名）</li> <li>・他大学に在席している被災した学生を、平成 23 年度の 1 年間に限り、科目等履修生（入学試験料、入学料及び科目等履修料を全額免除）として受け入れることとした。（前期の入学実績：なし）</li> </ul> <p>③ 義援金募金活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 22 年度卒業式 被災地出身学生、学生有志による義援金募金活動</li> <li>・平成 23 年度入学式 学生有志による義援金募金活動</li> <li>・学生支援部に募金箱を設置</li> </ul> <p>集まった義援金は、山口県共同募金会、日本赤十字社山口県支部に寄付。 義援金合計金額 393,176 円（平成 23 年 8 月 1 日現在）</p> <p>④ 被災地に安全ブザーを届けようプロジェクト プロジェクトの趣旨に賛同した学生有志、学生自治会が学内、地域の小学校に呼びかけ、安全ブザー、ホイッスルを集め、メッセージを記載し、プロジェクトを主宰する山口災害救援に届けた。現地へ送る梱包作業等も行った。</p> <p>安全ブザー、防犯ホイッスルの合計 約 100 個</p> <p>⑤ 学生主催チャリティイベントの開催 学生が主体となって、地域の方との交流イベントを開催し義援金を募った。 集まった義援金は日本赤十字社山口県支部に寄付した。 義援金総額 38,774 円</p>
5. 今後、予定している活動内容	<p>① 学生主催チャリティイベントの次回の開催に向けた支援</p> <p>② 教職員の親睦組織である「親交会」において、義捐金として 100 万円を送ることを決定</p>
6. 活動が、自治体の復興計画に記載されている場合（今後の予定を含む）又は自治体との連携協定がある、又は要望等がある場合（特に被災地の大学について）	

1. 大学名	山口県立大学
2. 実施主体（センター名）	国際文化学部
3. 連携大学・コンソーシアムがあれば（大学・コンソーシアム名）	
4. これまでの復旧・復興のための支援等の活動実績	<p>&lt;活動実績&gt;</p> <p>① 5月中旬に教員1名を支援活動準備のために派遣（岩手県）</p> <p>② 授業科目「地域実習」において、学生を派遣する東日本大震災復興支援活動プログラムを立ち上げ（従来の8プログラムに新たに追加）、教員2名、学生15名を5月末と6月末の2回にわたり、宮城県・岩手県に派遣。</p> <p>2回目の派遣の際、宮城県内の小学校に、パソコン5台を提供した。</p>
5. 今後、予定している活動内容	<p>上記派遣活動から生まれた後方支援活動「あんでネット」を継続。避難所や仮設住宅であいた時間に女性たちがつくる「アクリルタワシ」を、報告会や大学祭で販売し、被災地での暮らしについて考えるとともに支援を継続する。</p>
6. 活動が、自治体の復興計画に記載されている場合（今後の予定を含む）又は自治体との連携協定がある、又は要望等がある場合（特に被災地の大学について）	



1. 大学名	山口県立大学
2. 実施主体（センター名）	社会福祉学部
3. 連携大学・コンソーシアムがあれば（大学・コンソーシアム名）	岩手県立大学
4. これまでの復旧・復興のための支援等の活動実績	<p>&lt;活動実績&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 岩手県立大学社会福祉学部被災者支援に対する募金活動</li> <li>② 学生ボランティア代表の派遣（2名）</li> <li>③ 教員による災害ボランティア計画策定へ向けての調査派遣</li> <li>④ 学生による災害ボランティアサークル「Y P 勇気」の組織化。</li> </ul> <p>（団扇の作成・贈呈、シュシュの作成・贈呈、絵本の贈呈、メッセージカードの贈呈、募金活動等）</p> <p>&lt;その他の機関との連携の状況・協力体制&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 震災前からの連携の状況、協力体制 <ul style="list-style-type: none"> <li>○平成 19 年度より、岩手県立大学社会福祉学部とは、学部間交流事業を実施している。</li> <li>○山口県社会福祉協議会、山口市社会福祉協議会、防府市社会福祉協議会など、平成 21 年における山口・防府の水害を機に、各社会福祉協議会と連携し、ボランティア関連情報の交換、支援ボランティアの学習会（サークル等）への職員の招聘などの協力体制を作っている。</li> </ul> </li> <li>② 現在の連携の状況・協力体制 同上</li> </ul>
5. 今後、予定している活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 岩手県立大学社会福祉学部と連携し、同大学が実施している震災ボランティアコーディネーター事業（銀河ネット）に協力するかたちで、学生ボランティア活動を継続的に育成する予定である。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○岩手県立大学の学生ボランティアセンターの学生の招聘、担当教員の招聘。</li> <li>○夏休み等における“銀河ネット”を窓口とする被災地支援ボランティアへの参加。</li> <li>○宮古市唐仁地区における、地域の運動会（村おこし）などの実施支援ボランティアへの参加。</li> <li>○学生による災害ボランティアサークル「Y U 勇気」の活動支援</li> </ul> </li> </ul>
6. 活動が、自治体の復興計画に記載されている場合（今後の予定を含む）又は自治体との連携協定がある、又は要望等がある場合（特に被災地の大学について）	

1. 大学名	愛媛県立医療技術大学
2. 実施主体（センター名）	東日本大震災支援チーム ほか
3. 連携大学・コンソーシアムがあれば（大学・コンソーシアム名）	
4. これまでの復旧・復興のための支援等の活動実績	<p>&lt;活動実績&gt;</p> <p>①教職員の派遣</p> <p>○ 愛媛県からの要請を受け、4月28日（木）～5月6日（金）の間、4名（看護学科教員2名、臨床検査学科教員1名、事務局員1名）を派遣し、岩手県釜石市において、避難所の衛生管理と避難住民の健康相談、医療関係者との連絡調整等の活動</p> <p>○ 全国保健師教育機関協議会からの要請を受け、5月1日（日）～5月7日（土）の間、2名（看護学科教員1名、本学学部長）を派遣し、岩手県上閉伊郡大槌町において、全戸訪問調査による安否確認と健康管理の助言、社会資源調査等の活動</p> <p>②学生ボランティア</p> <p>4名（学生2名、卒業生1名、臨床検査学科教員1名）が、8月4日（木）～8月12日（金）まで、宮城県山元町及び岩手県大槌町にて、復旧活動等のボランティア活動</p> <p>③「東北に鯉のぼりを泳がせよう」プロジェクト</p> <p>学内東日本大震災支援チームと東京の民間病院、東京消防庁のボランティア有志が連携し、5月5日の「こどもの日」に被災した東北の町に鯉のぼりを泳がせるというプロジェクトを計画し、ホームページ、新聞紙上を通じて、鯉のぼり等支援物資を募集し、学生手作りの折り紙等と合わせ、岩手県の大槌町へ支援物資を搬送し、大槌町の空に鯉のぼりを泳がすプロジェクトを実施。</p> <p>④福島県産野菜の共同購入</p> <p>教職員による福島県産野菜の共同購入を実施</p> <p>⑤義援金募集活動</p> <p>学内の教職員から義援金を募ったほか、学生自治会による義援金募集活動</p>
5. 今後、予定している活動内容	<p>&lt;活動内容&gt;</p> <p>①学生自治会による福島県産野菜の販売等</p> <p>10月末に開催される学生祭において、学生自治会が福島県産野菜の販売や不用品のチャリティバザー、募金活動、被災状況の写真展示を実施予定</p>
6. 活動が、自治体の復興計画に記載されている場合（今後の予定を含む）又は自治体との連携協定がある、又は要望等がある場合（特に被災地の大学について）	

1. 大学名	高知県立大学
2. 実施主体（センター名）	看護学部・健康栄養学部
3. 連携大学・コンソーシアムがあれば（大学・コンソーシアム名）	
4. これまでの復旧・復興のための支援等の活動実績	<p>&lt;活動実績&gt;</p> <p>① 保健師派遣（看護学部）  災害対策基本法第 30 条に基づく厚生労働省からの地方自治体職員派遣照会に対して、高知県から保健師派遣が行われていた。県と市町村保健師の合同派遣であったため、高知県立大学からも派遣職員の登録（看護職免許所有者）を 8 名行ない、依頼のあった 4 月 5 日～11 日の間、保健師 1 名の派遣を行った（宮城県南三陸町）。主な業務は、被災地域の住民健康相談、全戸訪問調査、避難所の健康調査・保健指導、保健対策に関する被災地保健師との方針検討・業務調整など。</p> <p>② 日本災害看護学会初動調査の後方支援と、被災地レポートの全国発信（看護学部）  日本災害看護学会理事長が本学教授であった関係で、学会が行った現地調査の報告を理事長が集約し、全国に発信した。</p> <p>③ 被災地における避難民の方々の食支援（健康栄養学部）  石巻市、気仙沼市、釜石市に高知県立大学健康栄養学部から、これまでに管理栄養士資格を有する教員 5 人の派遣を行っている。</p> <p>&lt;活動実績と自治体との連携・協力関係&gt;</p> <p>① 震災前からの連携の状況・協力体制（看護学部）  ・平成 11 年より、高知県、高知市、県看護協会、県下災害基幹病院・協力病院など「高知県災害看護支援ネットワーク検討会」を構築し検討会を行ってきた。  ・上記の活動を通して、高知県看護協会と高知県は、「災害時支援ナース派遣に関する協定」を交わしている。</p> <p>② 現在の連携の状況・協力体制（看護学部）  ・県、市それぞれの担当課と協議を行い、県市が行った、&lt;活動実績&gt;の①の保健師派遣活動の総括と今後の対策検討について、協力している。従来から学内で活動していた災害時支援プロジェクトのメンバーを 8 名から 12 名に補強し、対応している。</p> <p>&lt;その他の機関との連携・協力関係&gt;</p> <p>① 震災前からの連携の状況・協力体制（看護学部）  ・上記の通り、自治体だけでなく、高知県看護協会、災害基幹病院、拠点病院、協力病院と高知県災害看護支援ネットワーク検討会を構築し、年 1～2 度の会議を行っていた。  ・日本災害看護学会の組織会員として登録し、2 年前からは理事長校として発災時の調査活動などを推進していた。</p> <p>② 現在の連携の状況・協力体制（看護学部）  ・日本災害看護学会が実施している、震災後のフォローアップ調査をバックアップしている。</p>

<p>5. 今後、予定している活動内容</p>	<p>&lt;活動内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 県市、活動のまとめを通した、「南海地震対策」の強化（看護学部）</li> <li>② 日本災害看護学会の「東日本大震災」に関するフォロー調査活動の支援（看護学部）</li> <li>③ 高知県災害看護支援ネットワーク検討会を通した、県下の災害時、看護支援対策の推進（看護学部）</li> <li>④ 派遣地の栄養士会と連携を行い、災害時における食支援のあり方を検討する。（健康栄養学部）</li> </ul> <p>&lt;活動内容と自治体との今後予定されている連携・協力関係&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 今後の連携・協力体制 <ul style="list-style-type: none"> <li>・上記活動を通した連携、活動の継続。</li> </ul> </li> </ul> <p>&lt;その他の機関との連携・協力関係&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 今後の連携・協力体制 <ul style="list-style-type: none"> <li>・上記活動を通した連携、活動の継続。（看護学部）</li> <li>・社団法人 日本栄養士会などと連携し、災害時における食支援のあり方を検討する。（健康栄養学部）</li> </ul> </li> </ul>
<p>6. 活動が、自治体の復興計画に記載されている場合（今後の予定を含む）又は自治体との連携協定がある、又は要望等がある場合（特に被災地の大学について）</p>	